

令和4年度 第1回 村上市地域包括支援センター運営協議会

日時：令和4年11月17日
午後2時45分～
会場：村上市役所4階大会議室

※委員出席者10名。八矢委員欠席。座席表にて紹介とする。

1 開 会 あいさつ 西村会長

今年度の取り組みについて、各担当から説明する。
議題（2）については、①～④説明後に質疑、⑤～⑦説明後に質疑と進める。

2 議 題

（1）令和4年度事業経過報告について（資料1）

※資料1について説明。

事業等は感染症対策をしながら中止なしで開催。8月豪雨災害時も日程調整の上実施した。集まることに対して抵抗のある人も多いが、何もしないことのリスクも考え活動している。

（2）各業務別活動状況報告について（資料2）

- ①介護予防・日常生活支援総合事業について（資料2-1）
- ②高齢者虐待防止事業について（資料2-2）
- ③成年後見制度事業について（資料2-3）
- ④包括的・継続的ケアマネジメント支援事業について（資料2-4）
- ⑤生活支援体制整備事業について（資料2-5）
- ⑥在宅医療・介護連携推進事業について（資料2-6）
- ⑦認知症総合支援事業について（資料2-7）

※①～④について、各担当より説明

【質疑】

委員：③について。市民後見人はどのくらいいるのか。

事務局：養成講座受講者は22人。そのうち実際市民後見人として活動している人は0人。

家庭裁判所は経験を積んでいることを重要視するため、現在は下積みを十分積んでいただく期間としている。

財産管理等今後難しくなるだろうというような困難ケースが年々増加している。

委員：②について。

相談通報件数は家庭内でのものか。施設でのケースはあるか。

事務局：在宅者の件数のみ。

委員：コロナ禍により虐待件数が増えるという予測か。

事務局：長期化により増加する可能性があると考えている。

委員：判断に至らなかったものには、認知症の場合があったりするのかわ。

事務局：認知症の場合や、養護者が障がい者などであるケースも多い。

委員：家族構成や関係性にもよると思うが、被害妄想かも、と誤ってしまったり、傍から見て大変そうと思っても当事者は気づいていなかったりなど、知られていないことも多いと思われるので、PRの繰り返しが必要と感じる。

委員：①について。通所サービスCの令和3年度参加人数があるが、参加可能な人数は。

事務局：モデル事業のあさひ教室は8名。むらかみ教室は5名。他地区の教室では10名前後が定員。

委員：ほぼ定員いっぱいで行われているということか。

事務局：応募でいっぱい、参加したくてもできない人がいる地区もある。

委員：高齢の親と障がい者の子の二人暮らしなど、世帯で支援が必要なケースが増えていると感じる。70歳代前半世代への支援は、どのように取り組んでいるか。「年寄りが行くところだから」と介護サービスの利用に拒否感のある人が多い。

事務局：要支援・要介護になる直前の人のフォローについては、なかなか手を付けられないでいた。そういった方に通所サービスCを利用してもらうことで、生活不活発やフレイルを予防できるよう取り組んでいる。

【補足】

事務局：通所サービスCについて、令和3年度はあさひ教室のみモデル事業であり、3か月を1クールとして2クール実施、各定員8名で行った。本来15名程度の定員だが、密を避けるため、定員数を下げて実施した。

※⑤～⑦について、各担当より説明

【質疑】

委員：⑤～⑦ではなく、②虐待について。入院患者の中に、経済的虐待により必要な介護サービス等が受けられないのではないかとと思われるケースがあるが、虐待と判断されたもののうち、経済的虐待はどのくらいあるか。

事務局：令和3年度の件数は確定していないが、身体的虐待と相まって起きているケースもある。経済的虐待ケースについては、成年後見制度や日常生活自立支援事業（社会福祉協議会）で支援できるよう取り組んでいる。

委員：⑦について。見守り安心ステッカー事業において、徘徊が見つかった事例はあるか。

事務局：40名程度の登録があるが、徘徊が見つかった事例はない。より事業の周知に取り組む必要があると考えている。

委員：⑤、⑥の事業に携わっているが、あさひ互近所ささえ～る隊の買い物支援は「良かった」という声が聞かれた。ボランティアする側も、高齢化や仕事があり大変で、行きたくても行けないという人がある。そのような中で、活動を継続していくためにどのように取り組んでいくか。また、参加した人以外はどのように支援していこうと考えているか。

事務局：買い物支援について、現在は「実証実験」であり、まだ課題出しの段階。令和3、4年度は「まずやってみよう」ということで始めたが、今のところ順調に実施できている。住民主体でやっていくもので、担ってくれる人が必要だが、一部の人に負担がかかるような方法では継続できない。運転手や添乗員をどのように集めるか、まずは知り合いや民生委員などから広く声掛けをし、ボランティアしたい人とのマッチングができれば良いと考えている。

参加者の評判は良いが課題も出ており、隊員やコーディネーターとの話し合いが多く必要になる。今後のビジョンは現段階では出せていないため、今後も「実験」を重ねていくことになるかもしれない。

3 その他

※特になし

4 閉 会 阿部副会長

高齢者虐待のうち「経済的虐待」について、サービス費用と年金額を比較しサービスをやめるよう促すことも虐待になるのではと感じた。

また、認知症事業についてはGPSのさらなる活用が必要と感じた。見守り安心ステッカーだけでは様々な状況に対応しきれないように思われる。

今回集まっている委員、職員それぞれの仕事の中で、弱い立場の人に手を差し伸べ、問題を解決していくことが必要。担当者の集まりにおいてよく意見を出し合っていき、担当者が代わったことでなくなってしまう、ということがないようにしてほしい。

